

<仙台国税局長賞>

## 未来をつくる税金

福島市立岳陽中学校 3年 紺野 奏奈

税金というと、道路や学校、病院に使われているというイメージが強いかもしれませんが。しかし、私は最近「税金は未来をつくるためにも使われている」ということを知りました。たとえば、人工知能の研究や、宇宙開発のプロジェクト、さらには新しいエネルギーを生み出す研究などにも税金は使われています。こうした取り組みは、私たちが大人になったときに役立つだけでなく、さらにその先の世代の暮らしをも支えるものです。

私は小さいころから宇宙に興味があり、ニュースで「日本の探査機が小惑星から砂を持ち帰った」という話を聞いたとき、とてもわくわくしました。その裏には、多くの科学者の努力と同時に、税金の支えがあることを知りました。もし税金がなければ、こうした大規模な研究は進められなかったでしょう。つまり税金は、ただ目に見える建物や施設を作るだけではなく、まだ形になっていない未来を支えているのです。

また、環境問題への取り組みも未来につながる大切な使い道です。地球温暖化を防ぐための再生可能エネルギーの開発や、電気自動車<sup>EV</sup>を広めるための補助金などには税金が活用されています。私は普段の生活で「税金」と言われても実感がわきにくいのですが、「未来の地球を守るために使われている」と思うと、急に身近なものに感じられます。

もちろん、未来のために税金を使うことは簡単ではありません。今すぐに利益を生むわけではなく、何十年も先にならないと

成果がわからないこともあります。そのため「なぜこんなことにお金をかけるのか」と疑問を持つ人もいるでしょう。けれども、誰かが未来のことを考えて投資しなければ、私たちの社会は発展しません。税金はその大きな役割を担っているのだと思います。

私は将来、大人になって働き、税金を納める立場になります。そのとき「自分の税金が未来をつくる力になっている」と考えられるようになりたいです。宇宙開発や新しい技術の研究は、もしかしたら直接自分の生活に関係ないかもしれない。でも、それがやがて誰かの命を救ったり、地球を守ったりするかもしれない。そう思うと、税金はただの義務ではなく、未来への希望をつなぐものだと感じます。

税金は「今の暮らしを支えるもの」であると同時に、「未来をつくる力」でもあります。私はこれからもニュースや社会の出来事に目を向けながら、税金の新しい使い道に関心を持っていきたいです。そしていつか、自分が納める税金が、未来の誰かの笑顔につながることを願っています。